特67
455

山本盛信著

豫州道後温泉由來記

明治十五年七月

国立国会図書館蔵

道後温泉由來記

山本盛信著

伊豫の國道後温泉の由來拔尋ぬるゑ千早振る神代の昔し大巳貴命少彦名命の二神力拔合せ心を一ゑして普く天下拔經歷し給ひ若し蒼生に病る者あるときい藥艸拔採て是拔服さしめ或ハ虫獸の毒ゑ觸る者あるとれい咒文拔唱へて是拔愈その法拔授け給ひぬ斯て二神此所ゑ至らせ給ひし時いらかる故みや少彦名命俄ろに氣絶させたまひ者もば大巳貴命大ひゑ驚愕せ給ひ則ち温泉拔汲て玉体に洒ぎろ

け給へいーばしが程ゑ蘇生らせ給ひぬ大巳貴命甚
た歡ひ給ひて勢ひ猛く湯中の石上に起立給ひしと
ぞ其石今い温泉前にありて諸人之ゑ賞翫ー玉の石
とぞ呼ひ傳へゑる其頃い此温泉を熟田津の石湯と
云ひ又飽田津就田津の石湯とも呼ひるせしと誠に
此温泉い奇異の妙驗ありて特り人類のみるらす禽
獸に至るはても其効能を感ぜるゑとにや往昔隣里
に病馬ありゑるが夜毎に厩ゑ脱出て自ら入浴し
終に其病ゑ去りしと云ふ又一羽の鷺ゑる驚來りて

朝夕流ゑに足ゑ浸ー幾程もなく平愈ーて飛去ーと
往々古書に記載る所ゑり斯の如く古昔よゑ其効驗
ゑ云ひ傳へてその名も殊に高ゑゑば代々の帝王も
數里海路ゑ凌がせ給ひ行幸あらせ給ふゑと實に幾
回と云ふゑとなしそも人皇十二代景行天皇て其后
八坂入姫ゑ伴ひて行幸させ給ひ十四代仲哀天皇も
亦神功皇后ゑ供に行幸ゑり中にも第十三代推古天
皇の御宇聖德太子い其靈驗を歎ー給ひて湯の測に
碑文を建立給ひぬ三十五代舒明天皇三十八代齊明

天皇三十九代天智天皇四十代天武天皇の四帝も皆行幸はゝ〳〵て玉躰を此湯に浸ゝ給へり斯て推古天皇三十六年の頃頗る大地震ゝて温泉爲に埋沒ゝ三年の后再度湧出せしが次て白凰十三年十月又地震ゝて人畜多く死ゝ山岳崩壞て此温泉も亦沒ゝて出す以後湧出せし時代は精細わらすと雖とも享祿年間に當り此地賊徒蜂起して湯の岡に戰ひ汚るゝ血刀を洗ゐしよゞ温泉忽ち涸て出ざるりぬ依て湯の神に祈りて元の如く湧出る效得たりと云ふ此時一の湯の内に石釜を据へ其面に藥師如來の像を彫付又蓋には南無阿彌陀佛の六字と願文及ひ享祿四年辛卯年河野太郎通直の數字を彫付たり次て慶長十九年十月復諸國大地震して此地も南面の山崩ゝ温泉爲に埋沒ゝり時に領主加藤喜明所民城指揮して是を窟たしめ寛永二年三月又地震ありて温泉出すりぬ時に湯月の城主蒲生忠和湯の神社に祈願して神樂を奏し温泉元の如く出るを得たりと貞享二年十二月に於ても亦地震の爲に泥水とるり暫く

にして精浄となりぬ其後寶永四年十月に當ても亦地震の爲に泉路閉塞翌年正月に至りて漸く湧出るに至れり其後とても折々地震の害に遭て温泉涸るゝことありと雖ともたゞしが程に回復して久しく入浴を絶ゝとなし曾て松山の城主久松少將定行公更に温泉を三等に區別し男女の混浴を禁し又棟屋を建設して偏に便利を計られしよりて一層浴客の數を増し且つ輓近に至ては別に浴室を開設て是を新湯と稱へ二階三層の樓閣を築き傍ら遊興を補助しゝば遠近の浴客日々に雲集て其繁榮昔日に倍せり實に明治る照代の効を云ふんゝ聊か筆を執て其沿革の概略を記しぬ尚精しきは道後名所案内等の書に就て視たまへゝ

明治十五年七月五日御届
同　七月　出版

著者出版人　愛媛縣平民　山本盛信
温泉郡魚町壹丁目五十五番地

印刷所　愛媛縣温泉郡魚町壹丁目五十一番地　向陽社

定價貳錢五厘

026100-000-4

特67-455

道後温泉由来記（予州）

山本　盛信／著

M15

ADC-3757